

【研修会に関するご提案（阿部（由）委員）】

研修会は、事例検討も含めて1日半くらいの研修にして掘り下げ、全体的な学習となる基礎研修と人口規模で分けたグループワークなどによって参加者が情報を共有し、減災に向けた取り組みがなされ、さらには大規模災害時における対応（主にNPO等の外部支援とボランティア活動の受援力）についての学びを深めながら、当該市区町村に戻ってから実践可能なよう、地元関係団体との協議が行われるようだと、確実に市民のための「防災」に繋がるものと確信しています。

+++++

① 講座形式の座学例

- 災害時におけるボランティア活動の効果について
- 災害時におけるNPO等支援団体の活動について
- 大規模災害時における市区町村行政の役割について
- 災害ボランティアセンターによる住民支援について

② 実例紹介

- 地震、雪、竜巻、豪雨、津波などによる被害地域の支援実例
 - どのような支援活動を行って、今はどのようなになっているのか？
- ※反省点も踏まえる。

+++++

- 災害時においては、その瞬間的な判断力が求められる傾向にあり、判断する人間が知識を有していない場合、一番の負債は地域住民となってしまうので、その担当者が現実的なものとして捉え、持ち帰って職場での議論が可能となるような研修内容で、しかも他機関との協定の在り方などが事例として示せれば、ガイドブックの存在をより活かせるものなのかもしれません。
- 行政職員は異動があるため、我々（社協）のようにずっと同じセクション（組織に違いはあるが）にいるわけでもないことから、温度差が生じてしまうのも今始まったことではなく、いかに「我が事」と思えるような研修内容にできるかがポイントとなります。
- 東日本大震災の当時を思い起こしてみると、石巻の行政職員は事前に「我が事」にしてくれたから、災害ボランティアセンターは少しでも他より円滑だったと思います。